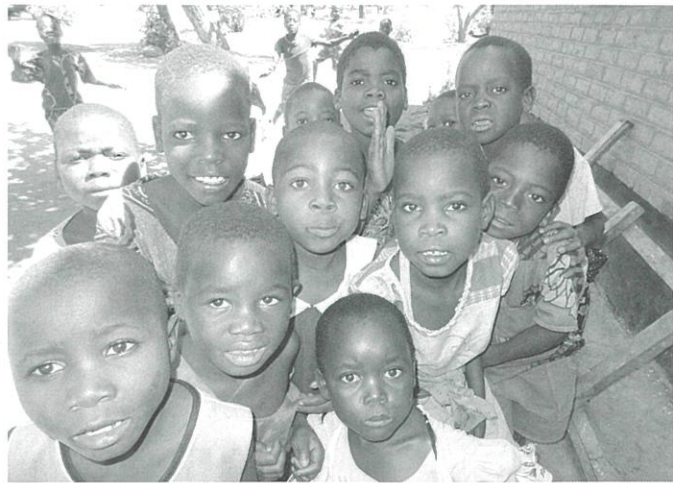


# 「マラウイの輝く瞳」 茂原町長がマラウイの青年海外協力隊を訪問



はだして走り回り元気いっぱい、マラウイの輝く瞳

## マラウイを訪問

青年海外協力隊等事業理解促進調査団としてアフリカ南東部のマラウイ共和国を訪れました。マラウイ共和国は人口が1500万人(東京都が約1300万人)。8割が農業に従事している農業国で輸出品のタバコ、主食のメイズ(白いトウモロコシ)、米、ジャガイモなどを主な作物にしています。

## マラウイの人たち

「ウォームハートマラウイ」といわれるあたたかい心を持つて(ヌラウバといわれるそうです)あたたかく迎えてくれました。



学校教育にあたる群馬県教育委員会の須藤 茜隊員(前列右)

1人当たりの平均年収は330ドル(約2万7千円)で、地域の多くは電気も水道もなく大変な生活だと思えますが、人々は明るく元気に暮らしています。

## JICA 頑張る隊員に感動

学校、かんがい施設、地域での生活改善などに取り組む隊員活動を視察しました。マラウイには1971年より1600人を超える隊員が派遣されており現在も85人が活躍しているとのこと。日本と違い大変な生活環境の中で地域の人たちの生活向上のため頑張っていました。



ハチミツ加工の皆さんと技術指導をしている坂口真由 隊員(前列左)

## 甘楽町とのかかわり

町には協力隊OBが設立したNPO法人自然塾寺子屋が上野にあり、隊員の事前研修が行われています。研修は甘楽富岡の農家を中心に行われ、今回のマラウイにも卒業生5人が派遣されていました。

## 視察を終えて

JICAの活動が世界各地で草の根的に活躍していることを実感しました。今後の活動にもっと理解を深め行政としても協力していくことの必要性を感じました。東日本大震災のときに、途上国から多くの見舞金が届いたと聞きました。世界で活躍するこのような隊員の活躍があつてこそと思います。帰国する隊員が日本でも活躍してくれるであろうと期待感を強くもったマラウイでした。